

令和8年 5月28日

大山町議会議長 吉原 美智恵 様

大山町議会議員 吉原 美智恵

令和8年大山町議会議員研修報告書

1	研 修 名	令和8年度第1回市町村等議会議員特別セミナー
2	日 時	令和8年4月20日（月）～21（火）
3	出 席 者	吉原 美智恵
4	研 修 地	全国市町村国際文化研究所（滋賀県）
5	研修内容	① 対話と挑戦で切り開く自治体経営 ② アジア No.1 の国際観光都市大阪をめざして ③ 実存的 AI へ～人間と AI のあるべき関係 ④ 現代の若者と政治参加の諸課題
6	研修結果 又は概要 （意見・ 感想）	① 対話と挑戦で切り開く自治体経営 ○講師 鹿児島県日置市長 永山由高氏 ○概要 日置市人口 45,500 人鹿児島市に隣接 主要産業 食品製造、漁業、農業 ※20 年間に平成の大合併⇒4 町合併 ○市長プロフィール 現在 42 歳、日本政策投資銀行から U ターン鹿児島市にて「実践まで手掛け るコミュニティシンクタンク」総合。 2021 年市長就任 昨年 5 月に無投票再選 ○基本的な取り組み姿勢 ・対話を軸とした市政運営 ・1 年ずつ家族(妻・子供 7 歳、3 歳)と 4 町を引っ越し ・就任直後から全職員と 30 分面談、2 年で 470 人 ・市内 176 の自治会すべてで「市長対話会」開催 ○問題意識 ・人口減少・年齢構成の変化という大きな荒波 ・厳しい財政状況の中でいかに民間のちからを借りるか ○取組中 ・材料となるデータを揃えて関係者間で危機感を共有する ・若者の大半が一度は市外にでるという客観的事実を広く内外に共有し、危 機感を揃える ・市役所自身も変わる姿勢を示すことで、先を行く民間企業の知恵と経験を

	<p>いただきつつ、組織変革のノウハウが循環する環境づくり</p> <p>○目下の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の多様な価値観をより大きな枠に包み込み、組織の「使命」の共有をどうするか ・ 生き方、働き方の理想像が更新され続ける中で、「理想の職員像」をどう描くか <p>「まだまだチャレンジの途上であり、日々葛藤の連続である」</p> <p>日置市役所の「羅針盤」</p> <p>〔使命〕 私たちは現在と未来の日置市民に奉仕する</p> <p>〔理想像〕 市民から信頼される市役所、働くことに誇りと喜びを持てる市役所</p> <p>〔行動指針〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 寄り添う：市民に寄り添い対話しともに動く ② 学び続ける：学びによって視野を広げ、成長し続ける ③ 行動する：地域の未来を創造するため自ら行動する <p>☆市長の明確なビジョンと情熱と行動力と対話と挑戦で切り開く戦略に感銘を受けました。</p> <p>② アジア No.1 の国際観光都市大阪をめざして</p> <p>○講師 元観光庁長官 大阪観光局理事長 溝畑宏</p> <p>○溝畑氏の言葉</p> <p>挑戦に批判はつきもの。それでも走り続ける。大阪万博は通過点、目標はアジア 1 位の観光都市。</p> <p>○キーワード</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 夢ありて生あり⇔夢を持ちいつ死んでも悔いのない人生を送る ② 着眼大局、着手小局(夢は大きく現実性のあること、実行は今できることを全力で取り組む) ③ 器が人を育てる＝脱身の丈 ④ 打たれ強く生きる＝逆境が人を育てる。開き直りが大事。摩擦・衝突を恐れない。多くの失敗でしか成功は生まれない。 ⑤ 最後は面白い、楽しい、美しいで判断 ⑥ 人間力＝オーラ⇒自信、迫力 ⑦ 義理人情⇔礼節、道徳 ⑧ 結果責任⇔自立自助 ⑨ 革命は一人から始まる→コミュニケーション能力で大きな流れ ⑩ 毎日、毎日が勝負ネアカ、ノビノビ、ヘコタレズ ⑪ 現場主義→基本は楽しく、明るく 自由闊達な意見交換 ⑫ グローバルな視点→Think globary <ul style="list-style-type: none"> ・ 最大のポイントは人材育成
--	---

	<p>① 家庭・地域・学校、三位一体による競争力、チャレンジ精神のある人づくり</p> <p>② 成功する人、頑張る人をほめる文化風土</p> <p>③ 敗者復活のある社会</p> <p>④ 温故知新</p> <p>○観光は地域の総合的戦略産業</p> <p>観光は各地域の取り組みにより地域独自の資源を掘り起こし、それに付加価値を加え、広報広告等により全国、世界に通用するものをつくり、その結果地域外(国内外)からひと・もの・かねを集めることにより、地域にとって持続可能な社会を作る総合的戦略産業である。</p> <p>③ 実存的 AI へ～人間と AI のあるべき関係</p> <p>○講師 京都大学未来研究院 出口康夫教授</p> <p>○実存的経済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実存とは <p>人間は目的や本質を持たずにこの世に生まれその後は主体的な選択と行動によってみずからの人生の意味や価値を創造していくという考えかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI とは <p>人間の知的な活動をコンピューターが模倣する技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI バイアス(人口知能の偏見) <p>学習データやアルゴリズムのゆがみにより、AI が性別・人種・年齢などで差別的、不公平な結果を出力する構造的、体系的な問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実存主義と AI <p>サルトルが提唱したヒューマニズム(人間中心主義)を踏まえ、人生とは実存のベルトコンベアーであり「人生物語としての創作。実演」を紡ぐ実存と反実存的 AI。AI は道具に過ぎない。主人と召使い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI の将来 <p>友人としての AI。一方的ではなく対話の相手。実存的 AI 対反実存的 AI＝美德対悪徳。倫理性を持ったウェルビーイングエシカルテクノロジーへの期待。</p> <p>④ 現代の若者と政治参加の諸課題</p> <p>○講師 日本大学危機管理学部教授 西田亮介氏</p> <p>○日本の人口と若者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の人口は約 1 億 3000 万人弱をピークにすでにピークアウト ・止まらない少子高齢化 ・人口は 10 年で約 500 万人減少(年間 50 万人) ・労働は内需地域社会、社会保障、社会保険の維持など諸領域に影響 ・他方親世代が減少しているため人口減少が 100 年たんのトレンド(傾向・動向)であることはほぼ宿命づけられている。
--	---

	<p>○日本の「Z 世代」(14～29 歳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米の Z 世代は気候変動、人種差別の撤廃などの社会問題に対し政治的行動、社会的行動に関心が高い(グレタトゥーンベリ氏など)、日本の Z 世代にそのような傾向は認められない ・メディアに取り上げられる 30 代半ばくらいまでの若者インフルエンサーが Z 世代と呼ばれている ・政治不信・政治的有効性感覚が乏しいとされている ・安定志向の就活：挑戦よりも福利厚生や心理的安全性を優先の企業選択 ・共働き志向：片方の収入では生活できないという現実 <p>○政治参加と若者世代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直近 2026 総選挙 投票率 56.26% <p>戦後 5 番目の低さ</p> <p>速報値 18.19 歳 投票率 43%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年の出口調査と SNS <p>SNS や動画サイトの情報を投票の参考にしたか</p> <p>参考にしなかった人 40.7%、あまり参考にしなかった人 12%</p> <p>○若者と政治に関する問題意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投票年齢引き下げ(満 20 歳以上⇒満 18 歳以上へ) ・現実政治に関する知識不足 ・中等教育までにおいて、現実政治が純分扱われていない ・現行法でも政治家を招いた試験車教育、政治教育が実現可能なはずであるが、学校側が注意深くあまり行われていない ・学校は本来現行法でも幅広い裁量を有するが阻害要因があり、実際には現実政治を用いた主権者教育、政治教育はかなりハードルが高い ・政治家や社会のクレームやハレーションが起きる可能性(2022 年菅元総理高校講演会中止) <p>○総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者についての理解を深める必要がある ・政治参加を促すのは意外と難しく、主権者教育といわれるが、投票率引き上げへの効果は判然としない ・現実政治を扱える政治教育が必要ではないか。ただし慎重な検討と寛容な導入が必須である ・推し活政治は過度に政治的中立に偏る日本の政治教育を再考させる契機だが、批判や権力監視の初歩的概念の理解浸透も重要である。
--	--